

和名倉山（白石山）山行記

2036m

和名倉山頂

4月17日金曜日昼に携帯メール届く「明日テント泊で奥多摩へ行きます。（佐野）」

笠取山麓にある三ノ瀬集落の民宿「みはらし荘」（標高 1250m）に11時30分到着、「みどりさん」は佐野さんの馴染で同年代の明るい女将さん。手打ちそばと山菜の天婦羅がおいしいので仕方なくビールをいただく。

今日の泊地は登山口から2時間ほどの将監小屋（標高 1780m）小屋までは東京都水道局の管理道路で車が入れるように整備してあり安心して歩ける。シーズン以外管理人は居ない小屋は20畳ある広く明るい畳敷き、水は都水道局だけあって池の底が濾過層構造になっているらしく冷たくてビールが良く冷えた。幕営地は整備された草の上、4時過ぎ明るいうちに就寝、朝の冷えこみもなくシュラフにもぐって快眠。翌朝は5時前起床、にぎり飯を味噌味おじやにして朝食、5時45分サブザックの軽装で出立。



山頂までは標準3時間30分標高差250m 途中残雪もあったが快適な登山路、木々の芽吹きにはわずか、肌色の光沢を放つ白樺の木立ち越しに八ヶ岳の白銀の連山、大菩薩、雲取、甲武信、霞んだ富士も眺まれる。

3時間丁度で和名倉山頂、山頂は木立の中でまったく眺望ない、アンパンを食らって写真撮って下山開始。眺望を楽しみながら2時間で将監小屋に到着。途中石楠花のトンネルがある、花の頃（6月）来て見たい場所だ。

小屋からは重いザックに担ぎなおして1時間10分で「みどりさん」の待つ「みはらし荘」に帰還。

「みはらし荘」の桜はまだ蕾が膨らんだ程度だが満開はさぞかし見事な古樹。奥多摩湖岸では満開の桜と唐松の芽吹き of 明るい緑が織り成し湖面に映えていたが標高差でこれほど開花時期に違いがある。

毎回感じることだが、佐野さんの脚力は30歳代です、川澄が常に前を歩いていたのは置いていかれない用心のためでした。お話では多摩川の河口から水源の笠取山頂まで138km（川の長さ）余りの踏破を先日成就されたとのこと。尊敬してやみません。

和名倉山は秩父の山ですが奥多摩から入らねばならないので閑静な山域、朝ゆっくり出発して将監小屋に宿泊、小屋から軽装でピストンするのが最も楽々な山です。秩父湖からの登山路は一時廃道でしたが2百名山とやらで登る人も居るようですが登り4時間半急登で山に馴れた健脚の人に限り。

